

『大学』より）

いにしえ　めいとく　てんか　あき　ほつ　もの　ま　くに　おさ
古　の　明徳を天下に明らかにせんと欲する者は、先ずその国を治
む。その国を治めんと欲する者は、先ずのその家を斉う。その家
ととの　ほつ　もの　ま　み　おさ　ほつ
を斉えんと欲する者は、先ずその身を修む。その身を修めんと欲
する者は、先ずその心を正しくす。その心を正しくせんと欲する
ものは、先ずその意を誠にす。その意を誠にせんと欲する者は、先
ずその知を致す。知を致すは物に格るに在り。

「字義」○知を致すⅡ王陽明によれば、自然な心情、本来的な心の働きを徹底的に発現させること。○物に格
るⅡ朱子によれば、この事物についての道理を徹底的に究明すること。王陽明によれば、対象に向かう心の
動きを正しくすること。

「解釈」　古来の理想的な明徳を、世界にはつきりと示し伝えようと欲する人は、先ずその国の人民を、善政
によつて治める。その国の人民を治めようと欲する人は、先ず己の一家の人を斉え、親兄弟が互いに自分
の分をわきまえつつ相手を思いやるような、敬愛に満ちた環境にする。家を斉えようと欲すれば、先ず自
己の身を修めて、喜怒哀楽の感情を素直に催しつつも人としての道から外れることなく、むしろ模範とな
るほど自然に表現し振る舞う。己の身を修めようと欲すれば、先ずその身のうちの心を正しくする。偏見
や妬み嫉みを持たず、自分が接するあらゆることから素直に学び取ろうとする。その心を正しくしようと
欲する人は、先ずその意について、誠実で、他人や自分を欺くことが無いようにする。その意を誠にしよ
うと欲する人は、先ず知を極め、快き善と、不快な悪とを迷うことなく判断する。知を極めることは、物
を窮めることによつて可能となる。『物』とは大学の教科である六芸、すなわち礼・楽・射・御・書・数であ
り、そうした物を学び、倦まず弛まず謙虚に究明し続けることである。